

PREMIUM WATER HOLDINGS

2026年3月期第3四半期 決算説明補足資料

株式会社プレミアムウォーターホールディングス
東証スタンダード：2588

2026年2月10日（火）



PREMIUM WATER
HOLDINGS

目次

- 当社が目指すもの・競争優位性・今後の展開
- 2026年3月期 第3四半期 業績
- Appendix
 - （1）会社概要・事業内容
 - （2）SDGsへの取り組み



PREMIUM WATER
HOLDINGS

当社が目指すもの

競争優位性

今後の展開



ウォーターサーバー需要の高まり

水道
老朽化

地震等
自然災害

PFAS
PFOS
問題

SDGs
意識の
高まり

社会的背景
(外的要因)



水資源を未来へつなぎ、
日本の天然水の価値を高める

PWHD（プレミアムウォーターホールディングス）は

宅配水
業界シェア**No.1**(※1)

宅配水業界
最多の**8**水源

PWHD誕生以来
ユーザー数**連続更新**

安心・安全に注力した
浄水型の展開



PREMIUM WATER
HOLDINGS

圧倒的な営業力

工場の最新化

配送効率の最適化

安心・安全な天然水を
安価で提供するための
基盤作り

製造原価を抑えながら
プラスチック量の少ない
容器で
おいしい水を全国へ

配送効率の最適化を図る
ための自社物流(※2) 網を
維持することにより
物流コストの抑制を実現

※1 2025年3月末時点の当社顧客数（173万件）÷日本宅配水＆サーバー協会（JDSA）の統計数字に基づく 宅配水市場2025年3月末時点の予想顧客数（524万件）

※2 当社の配送管理システムに参加している配送パートナー



天然水という差別化が難しい商品で、**市場シェアNo.1**。競争優位を構築・維持する3つのポイント。

1 業界No.1の顧客獲得力

圧倒的な営業力がある直販のノウハウを代販へ伝えることで、**さらに強固な販売網**を構築。



2 業界No.1の8水源（うち、自社工場3ヶ所）

月間 **約500万本**（約250万顧客相当）の生産能力を誇り、岐阜北方工場の竣工により、生産能力・生産効率が向上。



3 自社物流網の構築で効率的な配送

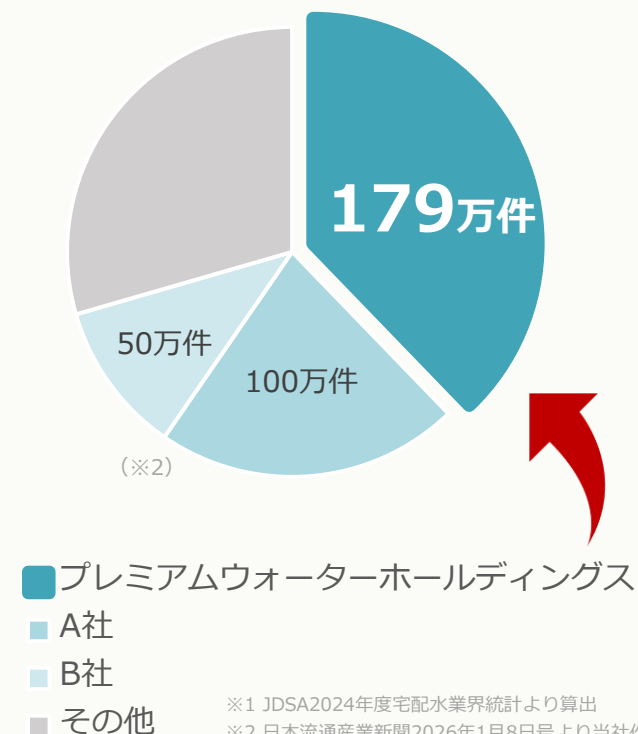
大手物流会社に左右されない自社物流網を構築したことにより、自社物流比率が**51.3%**まで上昇。**大幅なコスト削減**を実現。



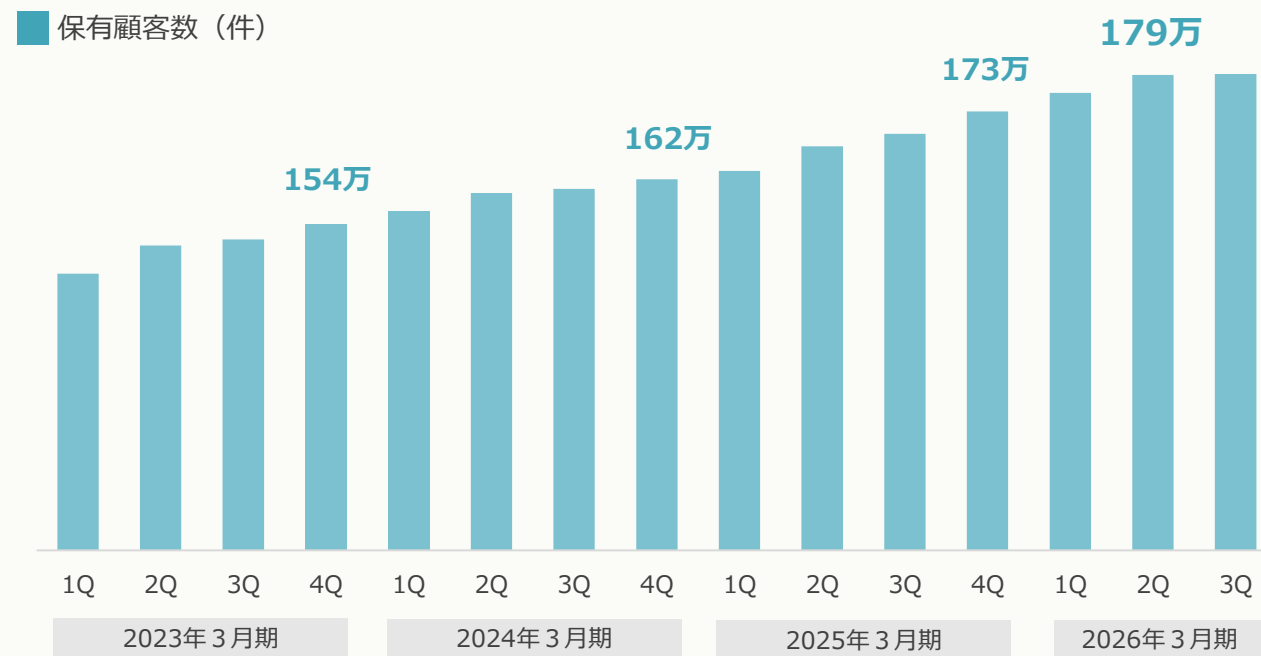
ウォーターサーバー市場

顧客数 **No.1**

業界シェア **32.0%**^(※1)



業界シェアNo.1の顧客基盤の拡大に注力。



顧客基盤拡大3つの施策

- ① 直販の生産性の強化
- ② メーカー特化型戦略による顧客満足度の向上
- ③ M&A・出資・業務提携による営業力の強化



効率的な製造・配送体制を構築しつつ、営業力強化への投資にも注力していく方針。

持株会社



PREMIUM WATER HOLDINGS

企画・管理
子会社

製造子会社

営業子会社

提携・出資等

持分法適用会社

宅配水販売

LASTONEMILE

議決権(※)
34.3%

INEST

議決権(※)
37.8%

ビール販売

DREAMBEER
SINCE 2020

議決権(※)
15.7%

取次店

※2025年12月末時点



当社は、2026年3月末までに東京証券取引所スタンダード市場の**上場維持基準へ適合する見込み**です。

<スタンダード市場における上場維持基準と適合状況>

	株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
2025年3月末時点	7,639人	56,835単元	167億円	19.0%
上場維持基準 (スタンダード市場)	400人	2,000単元	10億円	25.0%
2026年3月末時点の見込み	○	○	○	○

POINT

- ・大株主による市場での売却は行いません。
- ・実施後の流通株式比率は26%程度となる予定です。



PREMIUM WATER
HOLDINGS

2026年3月期 第3四半期 業績



堅調な保有顧客数の増加に加え、引き続き2024年4月に本格稼働した岐阜北方工場における生産体制の安定化・稼働率の着実な向上が利益増加に寄与し、前年同期比で増収・増益を継続。

●第3四半期累計期間（4月～12月）

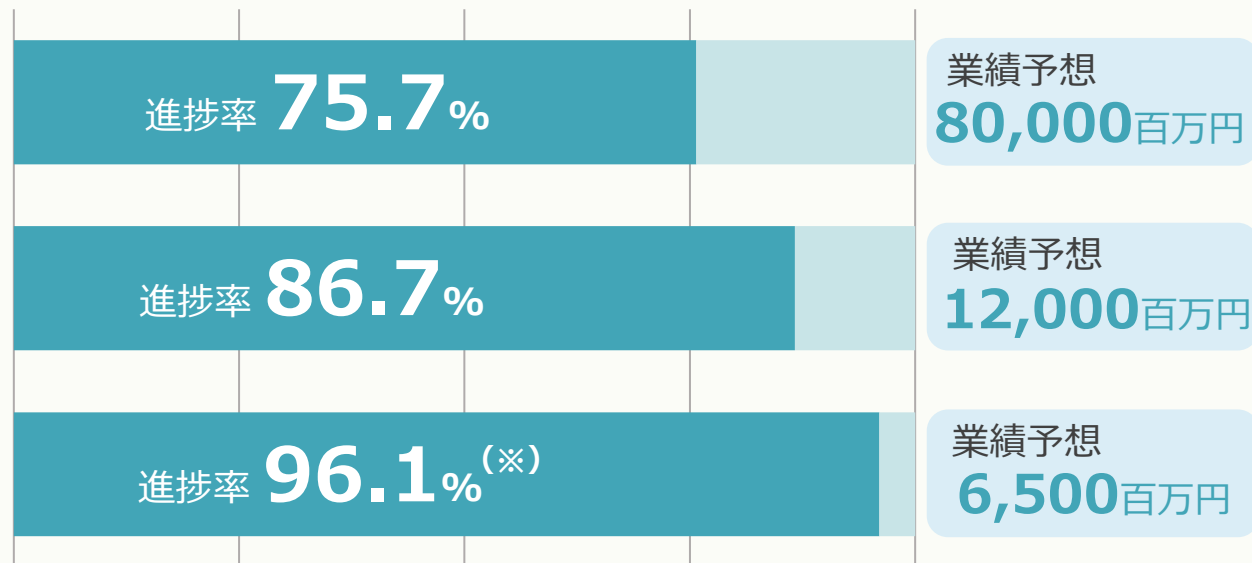
売上収益 **60,572** 百万円 前年同期比 **104.3%**

営業利益 **10,399** 百万円 前年同期比 **115.5%**

親会社の所有者に
帰属する四半期利益 **6,243** 百万円 前年同期比 **127.5%**

EBITDA **19,955** 百万円 前年同期比 **109.9%**

●通期業績予想に対する進捗率



※持分法による投資損失の減少に加え、連結子会社間の取引実績に伴う税金費用の減少により、当第3四半期累計期間においては親会社の所有者に帰属する四半期利益の進捗率は高水準で推移しております。

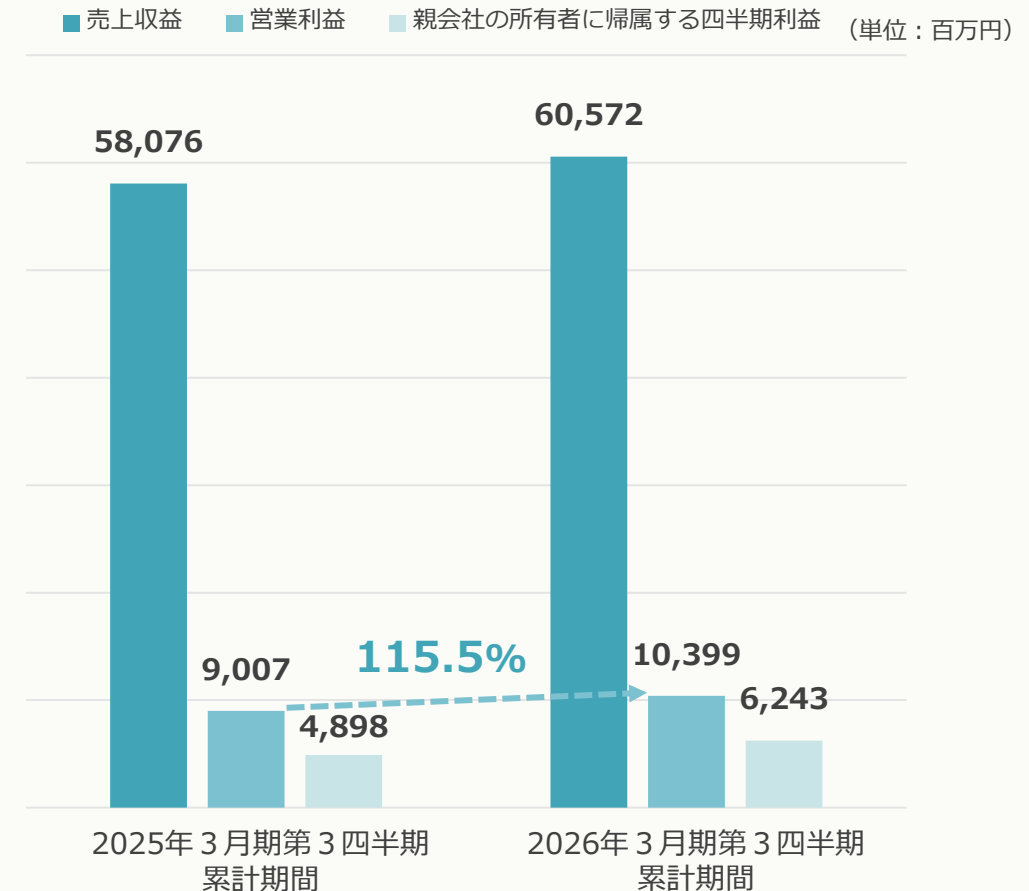


保有顧客数の増加により売上収益は前年同期比104.3%と増収。

生産性向上の取り組みが奏功し、営業利益は前年同期比115.5%と大きく改善。

（単位：百万円）

	2025年3月期 第3四半期 累計期間	2026年3月期 第3四半期 累計期間	前年同期比
売上収益	58,076	60,572	104.3%
売上総利益	49,623	52,110	105.0%
営業利益	9,007	10,399	115.5%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	4,898	6,243	127.5%
E B I T D A （営業利益+減価償却費）	18,165	19,955	109.9%





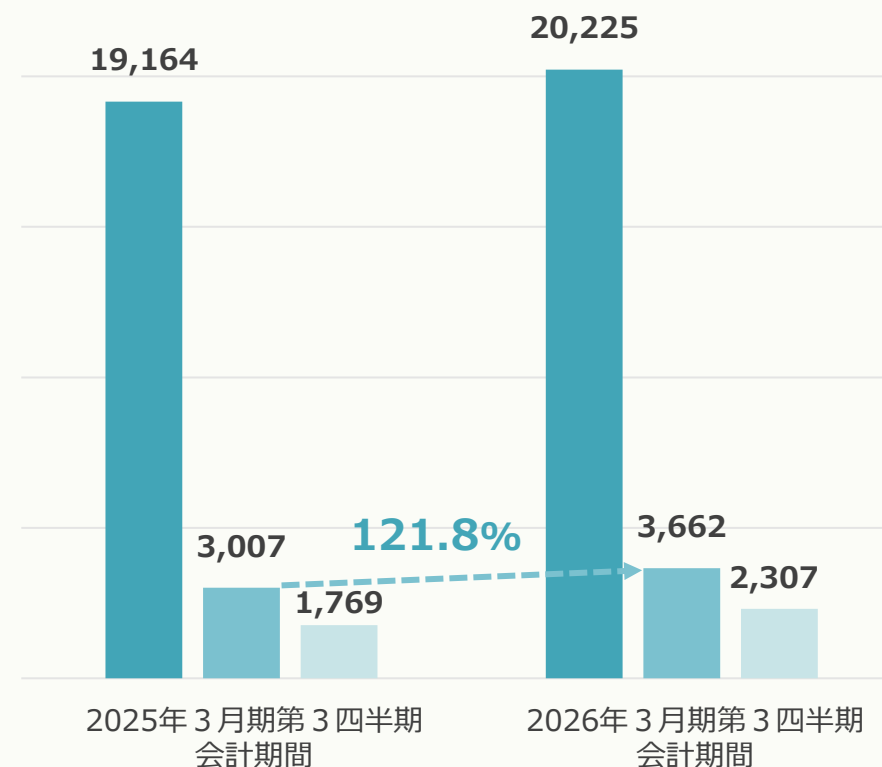
保有顧客数の増加により売上収益は前年同期比で順調に増加し、営業利益は前年同期比**121.8%増加**。

第3四半期も前年同期比で増収・増益を維持。

（単位：百万円）

	2025年3月期 第3四半期 会計期間	2026年3月期 第3四半期 会計期間	前年同期比
売上収益	19,164	20,225	105.5%
売上総利益	16,580	17,469	105.4%
営業利益	3,007	3,662	121.8%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,769	2,307	130.4%
E B I T D A （営業利益+減価償却費）	6,206	6,961	112.2%

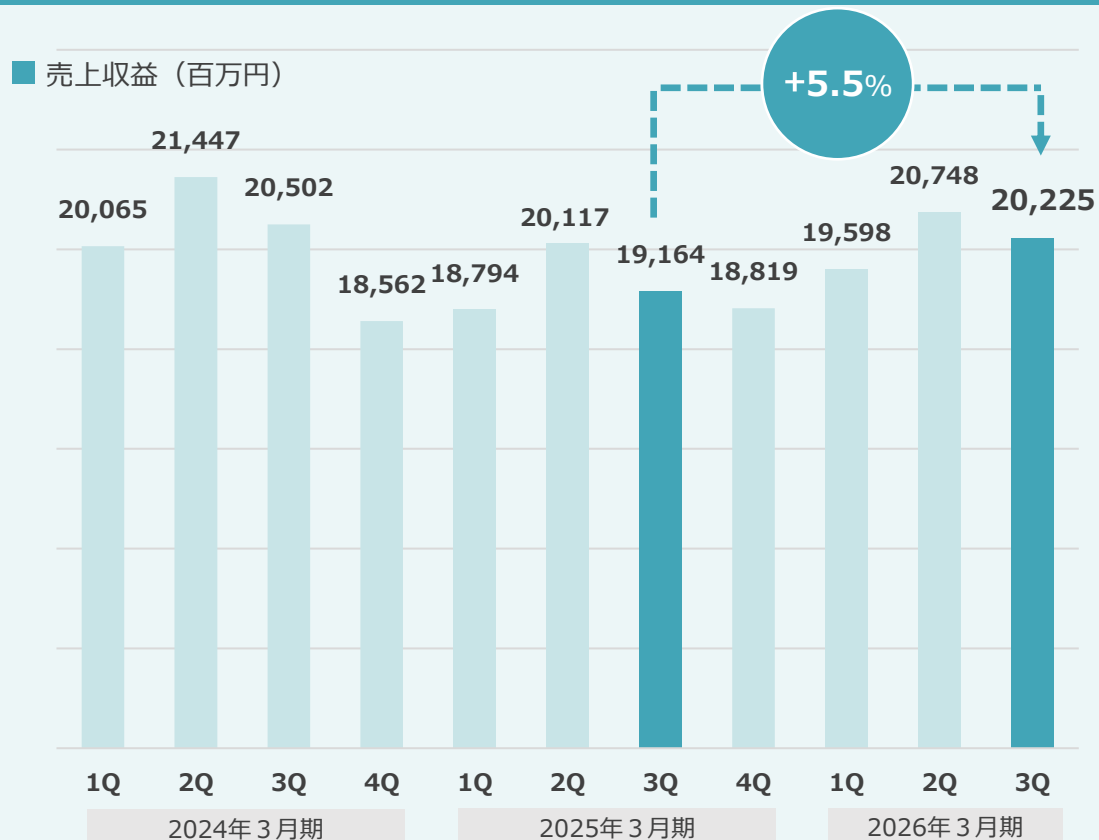
■ 売上収益 ■ 営業利益 ■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 （単位：百万円）



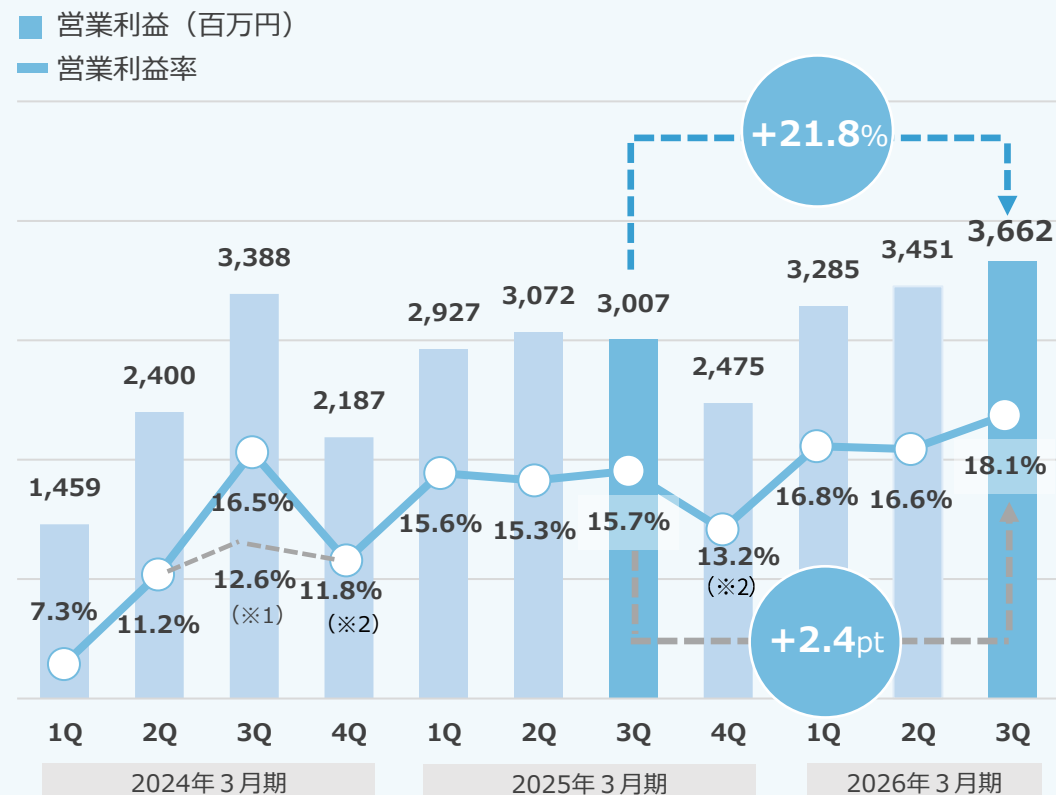


保有顧客数の増加により、第3四半期会計期間の売上収益は前年同期比**5.5%増加**、
営業利益率も前年同期比**2.4ポイント増加**。

売上収益の四半期推移



営業利益・営業利益率の四半期推移



※1 下記の特異要因を除いた数値（営業子会社の株式譲渡による利益：797百万円）

※2 毎期4Qは取次店等に対する手数料の支払いにより、1～3Qと比べると営業利益・営業利益率ともに減少

新規顧客獲得に加え、既存顧客の継続率を向上させることにより保有顧客数を積み上げる。

また、保有顧客数の増加に伴い、既存顧客に対する継続率向上のための施策が、今後さらに重要となる。

天然水(宅配水)



浄水型



主力の天然水ウォーターサーバーに加えて、
浄水型も成長ドライバーに

新規獲得

＜新規獲得増加＞

- ・直販の強化
- ・提携販路との資本関係強化
- ・M&Aの実施

継続率

＜継続率向上＞

- ・契約の長期化
- ・新製品の開発強化
- ・顧客満足度の向上

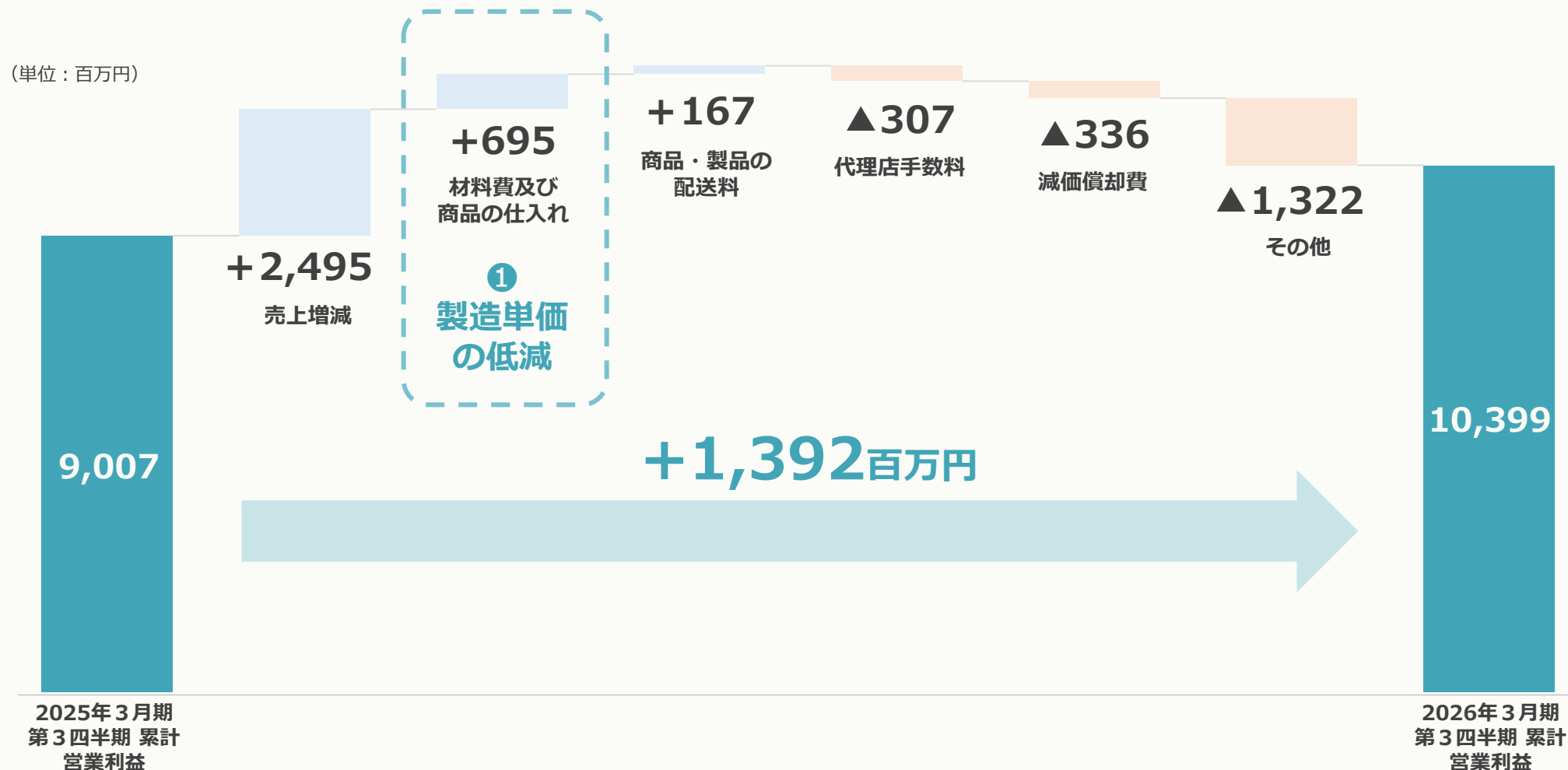
保有顧客数
増加



売上増加

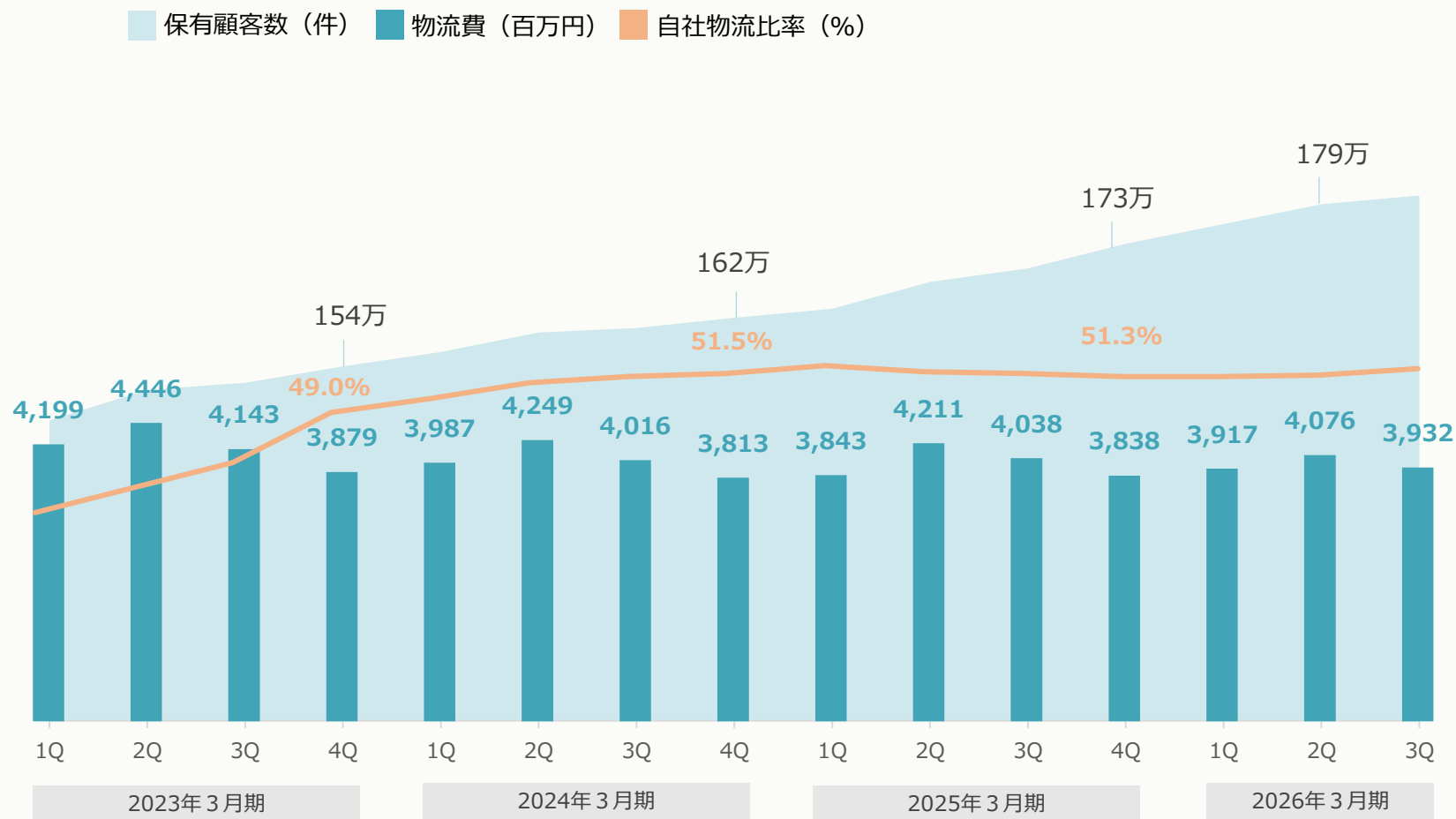


営業への投資や売上の増加に伴う変動費増はあったものの、保有顧客数の増加による売上伸長と、岐阜北方工場の稼働率向上による製造単価の低減①、各種コストの効率化が寄与し、営業利益は前年同期比で増加。





顧客基盤の拡大による物流量の増加や物価上昇の影響を受けるも、
自社物流^(※)比率を適正に維持することで、物流コスト全体の増加を抑制。



※当社の配送管理システムに参加している配送パートナー



(単位：百万円)

	2025年3月期 第3四半期 累計期間	2026年3月期 第3四半期 累計期間	増減	前年同期比
営 業 利 益	9,007	10,399	1,392	115.5%
金 融 収 益 + 金 融 費 用	▲544	▲506	38	—
持分法による投資損益	▲691	▲343	348	—
税 引 前 四 半 期 利 益	7,770	9,550	1,779	122.9%
法 人 所 得 税 費 用	▲2,873	▲3,306	▲433	—
非 支 配 持 分	0	▲0	▲0	—
親会社の所有者に帰属する 四 半 期 利 益	4,898	6,243	1,344	127.5%



ウォーターサーバー等の投資に係る資金調達により、リース債務等の有利子負債が増加。

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期 第3四半期	増減
流動資産	47,324	47,654	329
現金及び現金同等物	31,900	32,829	928
営業債権及びその他の債権	12,271	12,726	454
棚卸資産	917	742	▲175
その他	2,235	1,356	▲878
非流動資産	64,751	75,401	10,649
有形固定資産	32,797	33,984	1,187
無形資産	3,223	3,528	304
持分法で会計処理されている投資	4,218	4,657	439
その他の金融資産	10,103	17,835	7,732
契約コスト	12,847	14,421	1,573
その他	1,561	973	▲587
総資産	112,076	123,056	10,979

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期 第3四半期	増減
負債	87,003	93,698	6,695
流動負債	43,076	44,272	1,195
営業債務及びその他の債務	15,459	15,896	437
有利子負債	24,481	25,365	884
未払法人所得税	2,447	1,927	▲520
その他	687	1,082	394
非流動負債	43,927	49,426	5,499
有利子負債	43,289	48,783	5,494
その他	637	643	5
資本	25,073	29,357	4,283
株主資本	25,057	29,341	4,283
その他	15	15	0
負債及び資本合計	112,076	123,056	10,979



(単位：百万円)

	2025年3月期 第3四半期累計期間	2026年3月期 第3四半期累計期間
現金及び現金同等物の期首残高	30,561	31,900
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,144	15,802
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲9,314	▲8,929
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲3,376	▲6,092
現金及び現金同等物に係る換算差額	69	147
現金及び現金同等物の四半期末残高	32,085	32,829

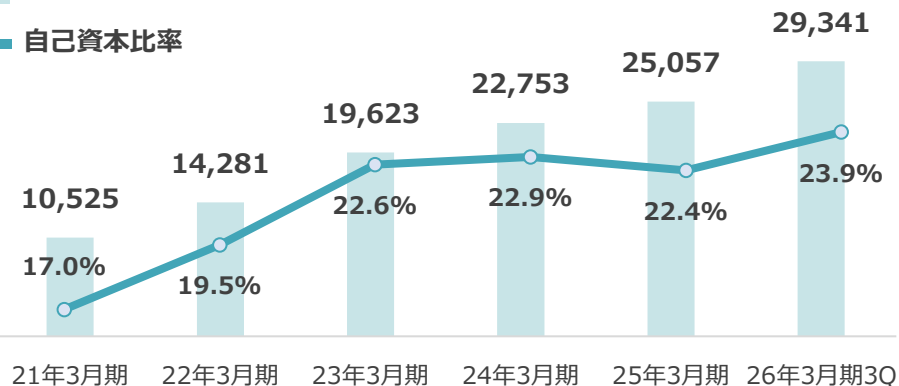


自己資本比率は30%を目標。流動比率の低下は、1年以内返済予定の借入金の増加が影響。

● 自己資本・自己資本比率

■ 自己資本（百万円）

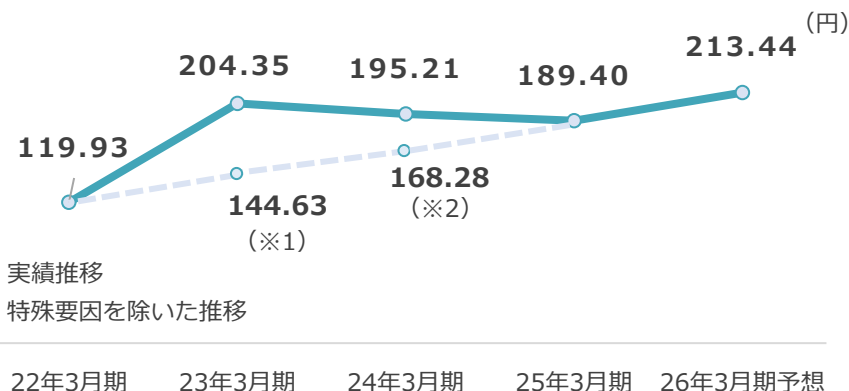
— 自己資本比率



● 基本的1株当たり当期利益（EPS）

— 実績推移

- - 特殊要因を除いた推移

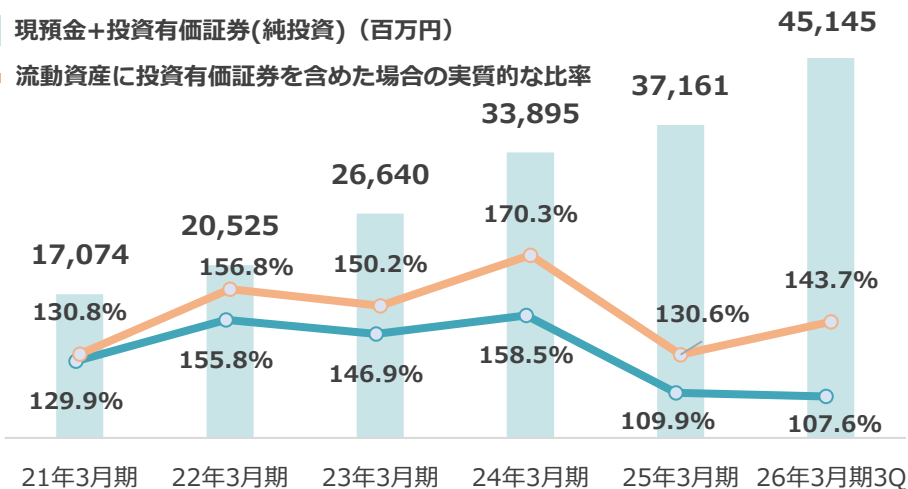


● 流動比率・現預金+投資有価証券（純投資）

— 流動比率

■ 現預金+投資有価証券(純投資)（百万円）

— 流動資産に投資有価証券を含めた場合の実質的な比率



ROE **23.9%** (2026年3月末予想)

ROA **5.3%** (2026年3月末予想)

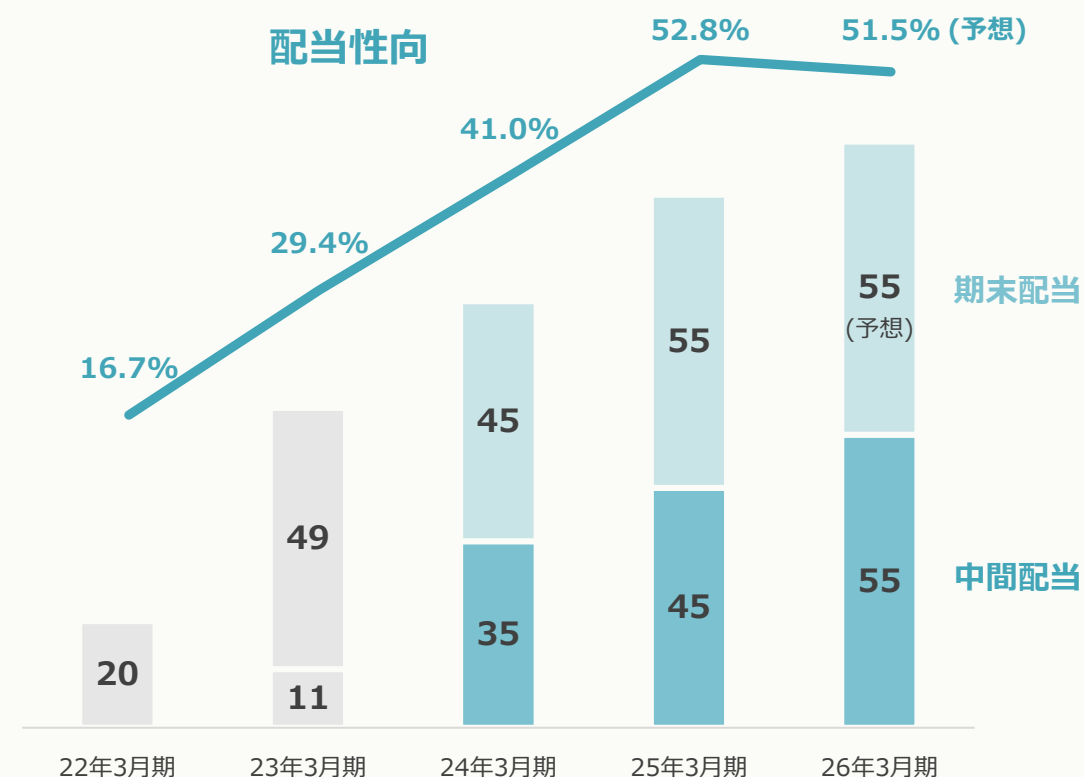
※1 2023年3月期において、当期利益は6,057百万円だったが、特殊要因として繰延税金資産の計上分1,753百万円を含んでいるため、その特殊要因を除いた当期利益は4,304百万円。

※2 2024年3月期において、当期利益は5,777百万円だったが、特殊要因として子会社譲渡の売却益797百万円を含んでいるため、その特殊要因を除いた当期利益は4,980百万円。

今後も内部留保や設備投資への成長投資とのバランスを考慮しながら安定的な増配を継続する方針。

(単位：円)

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (予想)
中間配当 (基準日：9月末日)	35.00	45.00	55.00
期末配当 (基準日：3月末日)	45.00	55.00	55.00 (予想)
合計	80.00	100.00	110.00 (予想)





PREMIUM WATER
HOLDINGS

Appendix

(1) 会社概要・事業内容



会社名	株式会社プレミアムウォーターホールディングス
設立	2006年10月13日
所在地	＜東京本社＞ 東京都渋谷区神宮前1-23-26 神宮前123ビル5階 ＜本店＞ 山梨県富士吉田市上吉田4597-1
代表者	代表取締役社長 金本 彰彦
従業員数	882名（連結）（役員、臨時従業員含まない） ※2025年3月31日現在
資本金	5,015百万円（連結） ※2025年12月31日現在
事業内容	自社ブランド「PREMIUM WATER」を中心とするミネラルウォーターの ウォーターサーバー事業を行う子会社等の経営管理及びそれに付帯又は関連する業務
主要なグループ会社	プレミアムウォーター株式会社 プレミアムウォータープロダクツ株式会社 株式会社LUXURY 株式会社PWリソース 株式会社ライフセレクト 株式会社プレミアムビジネスサポート SINGAPORE FLC PTE.LTD



VISION

自社の活動を通じて人々の生活を豊かに
そして**世界で一番愛される会社へ**

MISSION

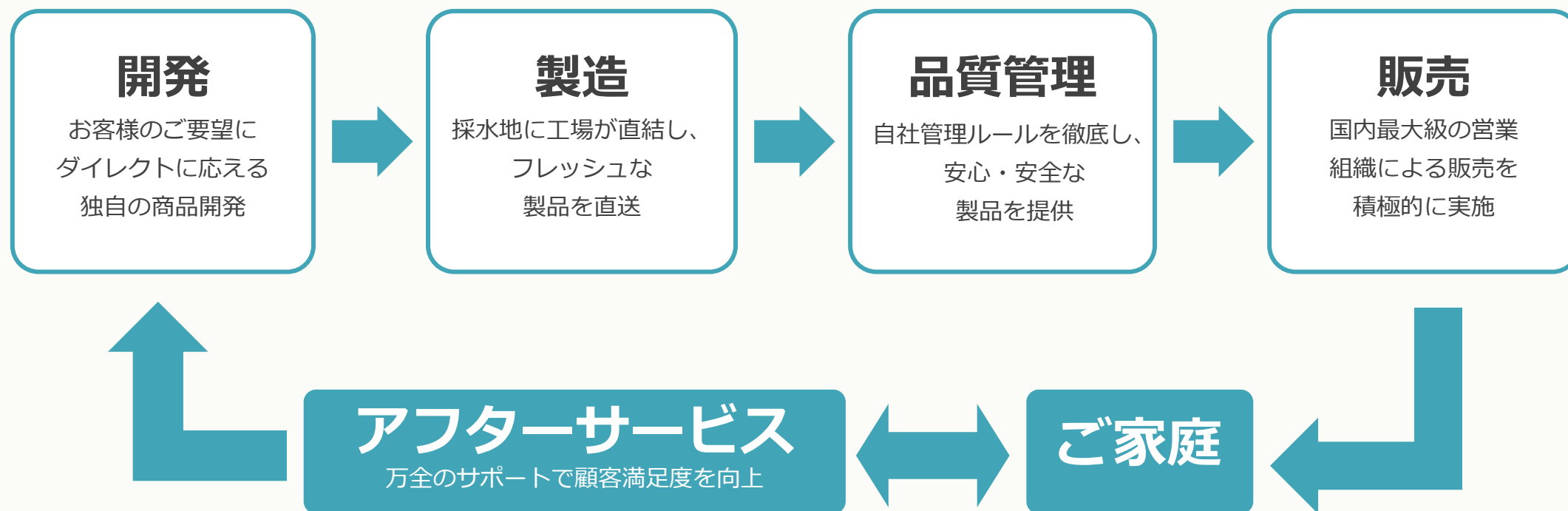
日本の天然水と言う唯一無二の価値を日本人に
そして世界に伝える事で社会的意義を果たし、地方創生を実現する

年号	株式会社ウォーターダイレクト	株式会社エフエルシー
2004年		2月 (株)エフエルシー創業 セールスプロモーション事業スタート
2006年	10月 (株)ウォーターダイレクト設立	
2007年	4月 第一工場稼働開始	
2008年		1月 ウォーターサーバー代理店事業開始
2010年	7月 富士吉田工場 竣工	4月 プレミアムウォーター(株)設立
2011年		3月 新設分割により(株)エフエルシー設立
2013年	3月 東京証券取引所マザーズ 上場	
2014年	4月 東京証券取引所 市場第二部へ市場変更	
2015年	2月 (株)光通信の子会社、(株)総合生活サービスによる TOBにより子会社化	

2016年	7月	株式会社プレミアムウォーターホールディングス設立
2020年	3月	宅配水事業における保有契約件数が100万件を突破
2022年	4月	東京証券取引所スタンダード 上場
2024年	4月	岐阜北方工場 竣工

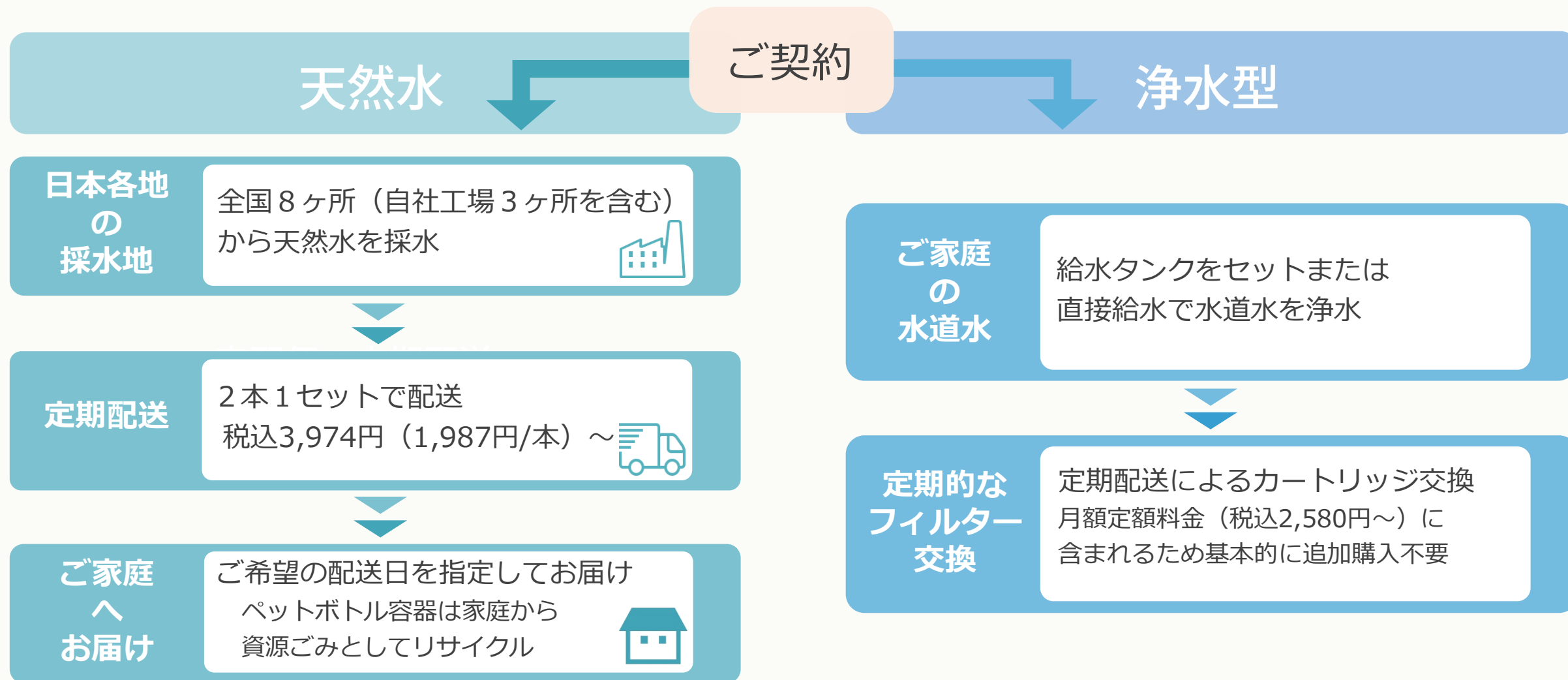


開発からアフターサービスまで一貫して手掛けることができる事業形態を活かし、
ダイレクトにお客様のニーズをとらえることで、より魅力的な商品・サービスをご提供可能。





自社ブランド「PREMIUM WATER」を主軸とした、天然水及び浄水型ウォーターサーバー事業を展開。





顧客の増加により確実に収益増加が見込める、安定性の高いビジネスモデル。

事業内容



天然水（宅配水）ウォーターサーバー

天然水の定期配送による安定した収益



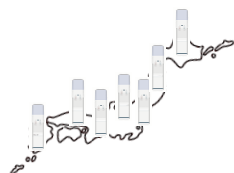
浄水型ウォーターサーバー

月額定額制(※) による安定した収益

※サーバーレンタル料+浄水カードリッジ料+配送料

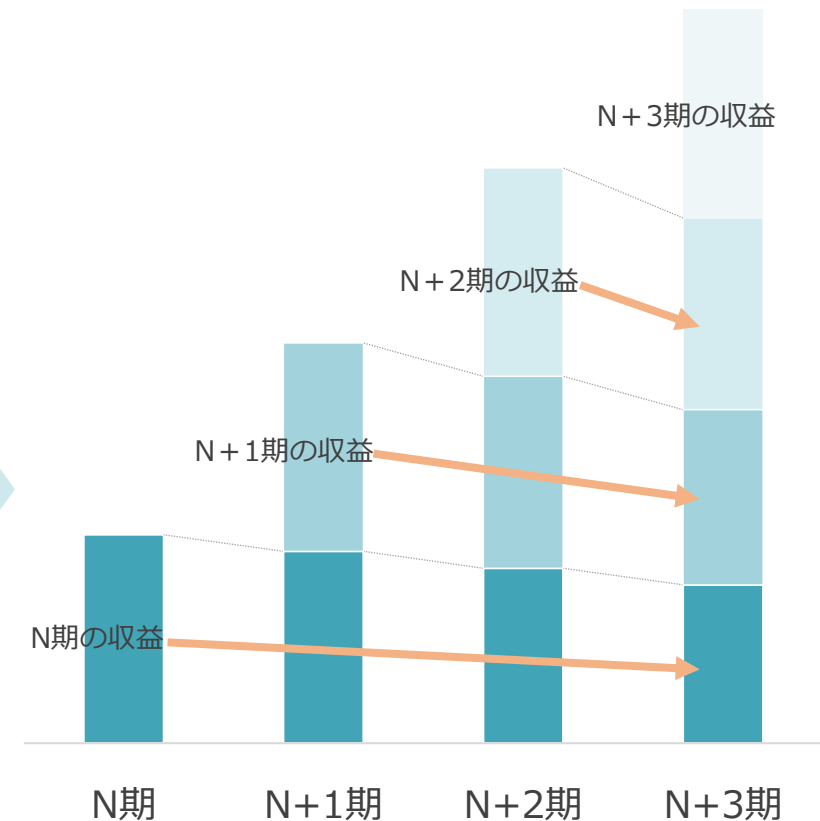


契約件数の増加



顧客 1 件あたりの
獲得コストが
一定水準であれば
収益が積み上がる

ストック型ビジネスモデル





PREMIUM WATER
HOLDINGS

Appendix

(2) SDGsへの取組み

こども食堂へのお米寄付



貧困や孤食という問題を抱える子どもたちの食が少しでも豊かになることを目的に、貧困家庭や孤食の子どもに食事を提供する「子ども食堂」に自社富士吉田で収穫したお米を寄贈しました。

ウォーターエイドジャパンへの継続的な寄付



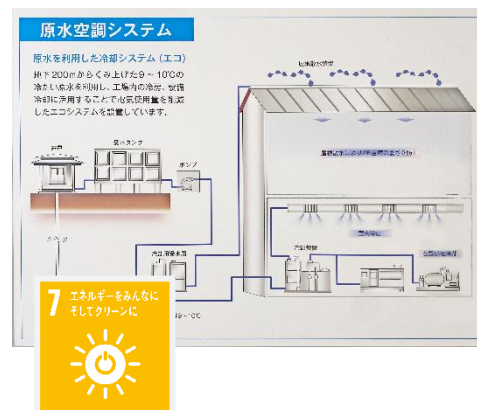
“SDGs特化型”の新たなウォーターサーバーブランド「PREMIUM WATER FUTURE」を立ちあげました。「PREMIUM WATER FUTURE」の売上の一部を愛すべき未来への想いを具現化する活動団体“ウォーターエイドジャパン”へ寄付することで、多くの人々が衛生的なお水を利用できるように支援しています。

災害時の支援・復興サポート



山梨県富士吉田市、兵庫県朝来市と「災害時における飲料水の供給に関する協定」を締結しており、災害発生時に被災者に飲料水の提供が必要となった場合、無償供給およびサーバーの無償貸与を行います。他にも、西日本豪雨による被災地支援品の寄贈、熊本地震における義援金寄付、熊本復興支援イベントの開催等を行い、「令和6年 能登半島地震」においても、被災地支援を行っています。

地下水の利用



富士吉田工場では、地下水200mからくみ上げた9度～10度の冷たい原水を利用し、工場内の冷房・設備冷却に活用することで電気使用料を削減したエコシステムを設置しています。

安心安全のナチュラルミネラルウォーター



同社グループの製品（ナチュラルミネラルウォーター）は、一般の公的基準よりも厳しい自社基準を設け、1日に10数回に及ぶ自主的な検査（水の微生物検査、理化学検査、官能検査）と定期的な放射線物質の検査を実施しています。また、赤ちゃんのからだにもやさしい「軟水」を提供しています。

PETボトルの軽量化



PETボトルの構造を変更し、2023年時点で20%軽量化（プラスチック使用量削減）を達成し、さらに2024年には3%の軽量化に成功しました。従来より23%軽量化した新たなペットボトルに順次入れ替え、2025年3月末までに全水源の約80%切り替えを完了しています。2025年度中に全水源の100%切り替えを目指しています。

公平な人事制度・ジェンダー平等への取り組み



人事考課での公平性を確保するために、人事ポリシー・考課制度を再整備しています。また、産前産後休業や育児休業・育児休業給付、育休中の社会保険料免除のほか、制度の周知や情報提供を行っています。

森林整備活動（西桂地区）



地域の水資源育成に向け、水源涵養機能の高い森が、良い水資源を生み、豊かな食生活を生むという考えから、西桂工場のある山梨県の西桂地区において健全な森を作る間伐等の整備を行っています。



サステナビリティレポート公開のお知らせ

当社グループのサステナビリティに関する取り組みや活動を、より多くのステークホルダーの皆様に
ご理解いただくことを目的に、当社ウェブサイトにて「サステナビリティレポート2025」を公開中です。

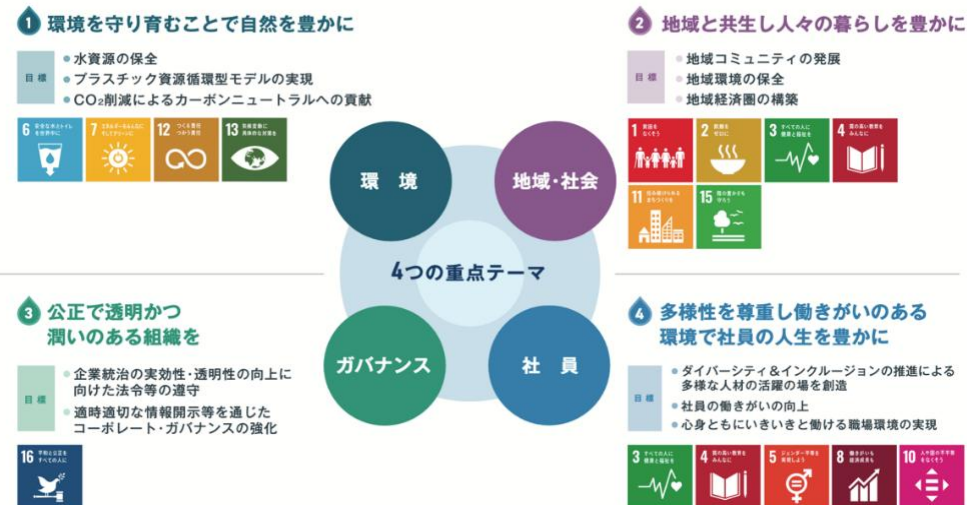
ESG（環境・社会・ガバナンス）の項目別に構成し、これまで実施した取り組みと持続可能な社会に貢献するための具体的なアクションを中心にご紹介しております。本レポートでは「CO2排出量のScope3算定結果」や「お客様への防災啓蒙活動」、「ダイバーシティ推進に向けた取り組み」等、最新の情報を追加しております。是非、ご覧ください。

「サステナビリティレポート2025」
<https://premiumwater-hd.co.jp/sdgs/img/report/ssr2025.pdf>

当社ウェブサイトのサステナビリティページ
<https://premiumwater-hd.co.jp/sdgs/>

持続可能な未来を目指して 4つのテーマを重点的に展開

自然の恵みである天然水を守るため、そして持続可能な未来のために、
私たちは事業を通し4つのテーマでサステナブルな取り組みを
推進しています。





1. 掲載された情報についてご注意いただきたい点

当資料を通じ、財務情報、経営指標等の情報の開示を行います。当社は、当資料を通じて情報開示を行うにあたり細心の注意を払っておりますが、当資料に掲載した情報について内容の正確性等を保証いたしません。当資料による情報開示は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は、ご自身の判断でお願い致します。当社は、当資料に掲載された情報を利用したことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

2. 将来の見通しに関する事項について

当資料に掲載されている情報には、業績予測等の将来の見通しに関する記述が含まれていますが、これらはリスクや不確実性を内包するものです。業績予測等の将来の見通しに関する記述は、その実現性を保証するものではなく、当社を取り巻く経営環境や市場動向の変化等により、実現しない可能性があることにご注意ください。

3. 当資料の運用について

当資料は予告なく配布の中止や内容の変更を行うことがあります。当社は、当資料を利用できなかったことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社プレミアムウォーターホールディングス IR担当

お問い合わせ先：<https://premiumwater-hd.co.jp/contact/>



PREMIUM WATER
HOLDINGS